

## 議案第 105 号

宝塚市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

### 資料2 任命しようとする者について

#### 1. 教育との関わり

教育委員会は、レイマンである教育委員と教育行政の専門家である教育長の合議により大所高所から基本方針を決定し、教育長が事務局を統括し、事務を執行するという仕組みを取っており、こうした仕組みはレイマンコントロールと呼ばれる。

ここでいう「レイマン」とは、単なる「素人」とは異なり、一般的な学識や経験が豊かであり、人格が高潔な人を指すとされているが、必ずしも「教育や教育行政の専門家」を指すものではなく、教育に関する方針等を判断し、決定し得るだけの力を有することが求められている。

木野氏はこれまで、行政運営に関することや財政的なことなどご自身の専門ではない分野の審議についても、積極的に事務局へ質問したりご自身で調べたりして、理解した上で判断をされている。木野氏は教育に特化した専門家ではないものの、法律家としての経験や知識などから、教育や学術、文化に関しても十分な識見を発揮されるものと考えている。

#### 2. これまでの活動履歴

教育委員会定例会及び教育委員会協議会への出席をはじめ、コロナ禍以前には市内学校園で開催される研究発表会などにも出席し、学校現場をご自身の目で確認し、他の委員との共有を図っていた。また、研修会にも積極的に参加され、教育に関する知見を深めてこられた。

また、総合教育会議において積極的に意見交換を行っている。現在、いじめ防止の課題解決に向け、検証委員と共に各小中学校を訪問し、学校長以下教職員へのヒアリングを通じて、各学校が抱える問題や課題の把握に努めている。

#### 3. 今後の活動に対する抱負についての本人のコメント

基本的に、「レイマンコントロール」の趣旨に則り、教育の専門家でないことを自覚しつつ、一人の弁護士として、一人の宝塚市民として、3人の子育て中の父親として、自分の考えを率直に述べていく所存である。

もっとも、現実的でない主張はかえって現場を混乱させるだけで課題の解決につながらないと思われる。したがって、実現可能性については常に意識しつつ、他の委員や事務局の意見に耳を傾け、直接的あるいは間接的に教育現場の声を聞くなどして、独断に陥らないように自戒しながら、一歩でも半歩でも宝塚の教育が良い方向へ向かうことに助力できればと考えている。

教育分野に限らずどのような世界においても対立だけでは物事は解決しないと考えるので、子どもの立場、教職員の立場、保護者の立場、市の立場に立ってみることを想像し、合意が得られる地点を探ることを忘れてはならないと思う。もっとも、それは単なる妥協であってはならない

のであって、「合意地点」は意味のあるものでなければならない。そのような理想論が簡単に通用するものでないことは理解しているつもりであるが、「現時点」より少しでも「より良い地点」に移動することは不可能ではないと考えている。

7月に着任した五十嵐教育長は、「子どもを中心に置いた子どものための教育」の実現を基本姿勢とし、教育改革を止めることなくやり切る覚悟と新しい時代に対応した教育を切り拓く気概を持って取り組んでいこうとされている。私自身の役割として、法律적인見地からの意見を求められることが少なからずあると思われるところ、その点に関しては、法律家の責任として可能な限り正確な助言をできるように日々研鑽を続け、課題解決に向けて改革を躊躇なく進めていくための力になりたい。